



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 平成18年度意匠学会賞および意匠学会論文賞                                                       |
| Author(s)    | 並木, 誠士                                                                      |
| Citation     | デザイン理論. 2006, 49, p. 1-1                                                    |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/53149">https://doi.org/10.18910/53149</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 平成18年度 意匠学会賞および意匠学会論文賞

学会賞選考委員会

委員長 並 木 誠 士

### 学会賞

該当者なし

### 論文賞

吉村典子「グラスゴアの都市再生プロジェクト——文化都市の確立とその後：「未来の家」を例に——」（『デザイン理論』47号所収）

#### 〈推薦理由〉

本論文は、イギリスの工業都市グラスゴアの都市再生プロジェクトを対象とし、アンケート調査という手法を用いて、その実態と意義を明らかにすることを試みたものである。

アンケート結果の解釈に関しては、恣意的にならず客観的であることの困難さがつねにともなっている。さらに、アンケート自体が目的化しないように注意することも必要である。その点、本研究はきわめて慎重に作業が進められている。その慎重さ故に、結論部分に物足りなさを感じないではないが、この点については、今後もより一層の实地調査を踏まえて、多角的・多面的にデータを充実させてゆくことを期待したい。さらに、イギリスのタイルについての著者のこれまでの研究と今回の調査が将来的に高次の結合をすれば、それは生活空間をめぐる総合的な研究としておおきな成果となると考えられ、この点でも今後の展開が期待できる。

文化都市としてグラスゴアが再生してゆく過程は、おそらく日本の地方都市のまちづくりにとっても参考になる部分がある。そのような社会的意義をも有するという点で、本論文は、意匠学会論文賞に値すると思った。